

ナゴヤ子ども応援会議

平成28年 1月 6日 午前 9時30分

名古屋市役所本庁舎 2階 第1会議室

協議題

いじめ・自殺予防対策について

出席者

河 村 たかし 市 長

梶 田 知 委員長

福 谷 朋 子 委 員

小 栗 成 男 委 員

野 田 敦 敬 委 員

船 津 静 代 委 員

下 田 一 幸 教育長

〈河村市長〉

おはようございます。時間となりましたので、私もちょっと自分でメモしてきましたので、お話しさせていただきたいと。要請なのは、一応独立行政委員会に、一応言うといかんけどなっておりますので、細部にわたって市長が指示とか、ものごとによると思いますけど、できないということがございますので、教育委員会の皆さんにお願いするという趣旨でございます。ですけど、途中で

出てきますけど、私が自分で調査に行きまして、市長は市長の独自の予算編成義務がありますので、具体的にそれは明らかで、来年度にあたって子ども応援委員会をどうしていくかとか、その他についてですね、私は私で市長としてですね、予算編成権者というか義務ですけど、やってまいりましたので、そこがどういうふうにワークしているのか、より子どもさんのためにええようにやっていく努めがありますので、教育に関してすべて教育委員会というわけではない、予算編成義務において、また人事において、なんかはやはりこれ市長が別個にやることになっておりますので、それは単純にわかって見えると思いますけども、お話をしていきたい、そういうことでございます。

いいですか、私からまずざあ一つ僕からばかり言いますけど、そういう趣旨でございますので。

今回2回目になりますか、1回目はあれを決めたときを1回目だとすると、今回3回目になりますけども。まず大きい流れとすると、教育からエデュケーションへということで、教育という言葉は僕はあまり使いたないんですけども、エデュケーションですね。子どもをどうやって応援していくかという体制の大きい流れの中で、来年度に向けてですね、ぜひ、子ども応援委員が置かれているのは110校のうち11校、ですからあと100校について1人ずつですね、これスクールカウンセラーになるのか、スクールソーシャルワーカーになるのか、または養護教諭さんなんかもお見えになりまして、僕がヒアリングしたところでは大変に活躍されとるということでですね、ただそれでそのままという訳にはいきませんが、色々勉強といいますかトレーニングがいると思いますけども、そういう方とか。そういう方も入れながら全校設置体制、ですからあと100校ですか、100人ですね、一気にじゃなくて1年内で作っていただけるように取組みをお願いしたい。そのためには予算が一般的に言いますと、1000万はちょっと高なるんですけど、ざくっと言いますと公務員の総人件費でいきますと1000万ですので、ちょうど10億円になりますので、前から指

示をさせていただいておりますけども、その取組みをお願いしたい。そのためにも全力でこちらもサポートさせていただきますし、国も応援するとはっきり明言しておりますので、ぜひまあこれで。

この間非常に感慨深かったのは、あの時にヒアリングに行きまして、当該中学校にですね、10名、校長さん教頭さん、部活の人やら学年主任さん、それから養護教諭さん、全部聞きまして。あとで出てきますけども、まず内輪だけでやる予定だったんだと、だいたいそういうことだったんですよと、どうにもならんときだけ子ども応援委員会に相談するという体制だったんですよ。あとで出てきますけど。もしね、各1校ずつ非設置校に全部一人ずつ常勤を入れたらどうですかと聞いたら、大変に助かりますということで、僕がしゃべった人は全員そうでした。言っておられましたんで。

別に先生を楽にするのは本旨ではないですけど、まあそれはそれ、先生を楽にすることは、僕はいいと思いますけども、やっぱり目的は子どもさんが、エデュケーションで子どもの能力を引き出していくということですけど、確信を持ちましたので、ぜひ来年度取組みをお願いしたいということがまず一つですね。

そのために某、あんまり言うとなんですけども、関係者の方とも昨日電話でしゃべっておったんですけども、やっぱりそうなってくると、とりあえずプロジェクトチームを作って、いい人を採らないかんし、今言ったようにスクールカウンセラーなり臨床心理士なり社会福祉士なり色々あるから、一応私らも入りますよと言ってました、その方。で、やっぱりプロジェクトチームを作らなきゃいかんよという意見がありました。100人体制をどうやって作っていくのか、だれを選ぶか、どう運営していくかとかですね。日本で初めてのことになりますので、ぜひお願いしたいと思います。

まあ一つ、オルウェウス方式と言いましたかな、なんだったかな、非常にやっぱり今回子どもさんで印象的だったのは、子どもさんは子どもには相談す

るんだね、あれ結局、自分の苦しみを。親には相談せんわけですわ、先生にも、大人には。ということがよう分かりましたね、あれ、結果を見て。22人だったかな、22人、まあ程度によって色々差がありますけども、気付いていたと、生徒そのものは。だけど、これも程度は色々ありますけども、親とか先生方は知らなかったということですね。その問題点を受けてシドニーに、よう言いますけど、シドニーに行っとなったときにちょうど名古屋でそれがおきましたので、重く受けて、シドニーの学校、これイエズス会のミッション系の学校だったんだけど、生徒に昨日名古屋でこういう大変悲しいことが起きたと、あんたんとこはどうなんだと聞きましたら、その生徒は外人ですけども、昔は多かったですと、自殺がという意味じゃないと思いますけど、これはみんなの責任だと、これは、子ども自身が見過ごすということは、いじめとることと同じくらいいいかんことなんだというふうになったんですと、みんなの、学校の中で、それから一遍に減りましたということ、日本で言ったら中高一貫の高校生くらいな感じですけども、そのことを言っておりまして、そのあと高原さんにも言いましたけれども、その話を。オルヴェウス方式言ったか・・・どう言ったかな。

〈教育委員会事務局子ども応援室高原首席指導主事〉

オルヴェウス・プログラムです。

〈河村市長〉

オルヴェウス・プログラムというものがあって、皆さんにも言ってるかもわかりませんが、こないだ話がありまして。そういうことで、ぜひやっぱり子どもさん同士でみんな、私は浄土宗ですけど、キリスト教的にいやあ「汝（なんじ）の隣人を愛せよ」というやつですわ。そういうようなものも進めてほしいということなんです。

それからもう一つ、これは盛んに言ってますけど、たとえば名古屋城なんかもそうですけれども、子どもさんの社会科なんかの中に、18歳に選挙権があることもありますから、社会的問題をですね、ぜひ教えてほしいなど。先生は中立性がないといかんですよ、こういう意見もあればこういう意見もあるよということで。だけど、まあ僕らの生徒時代を振り返っていやあ現代史はやりませんから。真珠湾が何年だったとかですね、満州事変が昭和6年だったとかそういうことですね。終わっちゃいますので。現代的な問題について、原発でもそうですよ、そういうこととか。それから今のシリアとフランスの問題もそうじゃないですか。そういうことをやっぱり。だけど偏らんようにね、先生自体はものすごく勉強していただいて、あんたこう言っとるけど、やっぱりこういう見方もあるんだよということで、やっぱりみんな若いうちから今の社会の問題に取り組めるようなことをやってほしいと思います。特にこないだ頼んどるのは、名古屋城なんかね、良いテーマですよ、これ。これは。名古屋城というのはどういう意味合いを持って生まれたのか、日本の内戦を終結させたのは関ヶ原ではなく大阪夏の陣だとかですね、人類というのは日本人だけ超平和なように見えますけど、実は応仁の乱から、応仁の乱は10年で終わりますけれども、100年にわたって、150年にわたって壮絶な殺し合いがあったんですよ、実は、戦国時代に、そういうふうなところを終わらせたのはこの名古屋城なんだけど、そういうようなこととか。例えばお金についても何百億だと言っとるけど、それは本当にそのお金というのは借金なのか財産なのかとかですね。例えばそういうような問題とか。それから名古屋市の郷土の歴史というのはどういうもんなんだろうとか。ということをぜひ、若い18歳が有権者になることもありますのでやってほしい。

それから同時に、名古屋市立大学にお願いしまして、スクールソーシャルワーカー、それからスクールカウンセラーとかですね、まあ要請というか、色々な教育プログラムといたしますか、それをお願いして、予算要求・・・より本当

は僕からすりゃ自分らで工夫してやらないかんがや、と言いたいところですけど、ちゃんと進めようじゃないかと。愛教大（愛知教育大学）もやるということで新聞報道に出てまして、愛教大のべっぴんさんの校長に頼んだことありますけど。まあ愛教大は愛教大でいいんですけど、やっぱりやるんだったら名市大のほうにやってもらうと名古屋全体として取り組んでいくということになりますし。そういうことで同時にお願いしてありますので。そういうことを含めて今のPT（プロジェクトチーム）の中で、そこまで含めて大きな取組みをしていただきたいということがもう一つです。

それからもう一つ。子どもの貧困というのはなんととっても、テレビなんか見ますと、本当に深刻なことですね、お母ちゃんが、特に離婚されたお母ちゃんが夜遅うまで働いて、家に帰って来れないので晩飯が作れないという、晩飯と一緒に食べれないという子どもさんが非常に多くて、コンビニなんか行ったりして、色んな交友関係に入っていったるというのも、よう報道されてますしね。だから今色んな地域では子ども食堂という、みんなでボランティアで集まって子どもがみんなで夕食を食べたり。それから、無料塾ですね。学業が遅れてたり、みんなで学校とのギャップを縮めてやるという活動なんかは非常に現代的には大変大きい問題だと思うんですよ。で、こないだ新年会の時に子ども青少年局長が、僕が担当でやると明言しましたんで、これは。ですからぜひ縦割りにならんようにね。学校に行く前の人たちは子ども青少年局かわからんけど、教育になるとこれブチッと切れちゃうわけですよ、今んところ。教育委員会の学校行つとる子たち、そこ一緒になって。特に就労支援のことがありますので、財界、とあんまり言いたないけど減税なんかしっかりされとる人たちに、減税分を一部寄付して、頼むでこういう活動に充ててくれんかと。子ども食堂とかね。それから無料塾とか。そういうふうにとりまして。また、企業の人が入ってきてもらうと就労支援に直接つながるんですよ、やっぱり。例えばウチ運転手辞めたで、まあ18歳以下はいけませんけど兄貴でもおったら、あんな

ウチで働いてみたらどうということにつながりますんで。福祉と教育の分野だけで行政でやってると、そこブチ切れちゃうんですよ、就職層の間で。18歳の壁とかなんとか言いますわな、これ。ですから子どもを応援するという視点で、教育委員会の中にも作っていただいて。子ども青少年局の佐藤さんが、僕がやる言ってますんで、ですから、そことよく連絡とっていただいて。シームレスってよく言いますが、やっていたきたいと思います。

特に教育のほうは、佐藤さんにこないだ言いましたが、中法人会から言ってもらったでって。法人税減税だけで32億ありますんで、毎年。この分をなんとか、別に子どもじゃなくてもいいんだけど。色んな福祉ありますけど、ぜひ名古屋でシンボリックに言うなら子どもさんのために活かしてほしいと。特に大きい企業はね。零細企業の場合は、言いましても人手は割けんですわ、これ。減税分を寄付するということはできないことはないと思いますけど、お金だけで言えば。だけど人手は割けないので、特に大きいところに対してね。じゃあ言いましたら断るかもっていったら、そうじゃなく、どうやってやったらいいか教えてくれって言いましてね、みなさん。ですから、ぜひそこら辺の教育の中に留まることなく、せっかく実業家が二人お見えになりますし、ぜひ会社の人たちが就労支援も入れてね、子どもの貧困に取り組んでいただきたいと。まあ具体的に言や無料塾であったり、それから子ども食堂であったり、ああいうのを地域で。学校なんかで言や空き教室もあるし、コミセン（コミュニティセンター）もあるじゃないですか。ということありますんで、お願いします。

中村区のある方から、ちょっとレターがきておまして、実は無料塾をやろうと思ったんだと、中村区のある地域で、コミセンでやろうと思ったって書いてあった。で、先生誰かおらんかって公募したけど、誰も来なかったらしいですわ。なんとかならんかって言って連絡をいただいておりますしね。そういう気持ちのある方結構多いんですよ。これなんかも、私は名市大にですね、単位を出してやって欲しいと、無料塾なんかやった生徒さんにはね、学生には。ま

あ、そういうことも取り組んでおりますので、ぜひ、教育委員会の中で作って
いただいて、佐藤さんなんかと連絡とっていただいて。

企業は別だじゃなくて、ぜひそういう取組みをお願いできんかと。まあ減税
から寄付へちょっとでもシフトしてくださいよと、お金だけじゃなくてね。今、
僕は新年の、来る人に全員頼んでますから。

ということでございまして。それから、これ問題に若干なりましたけど、子
ども応援委員会が活動するには、教育委員会の許可がいるという条文があった
ことについて、まあそれは子ども応援委員会内部のことだという変な言い訳し
ておりますけど。そんなことありえんじゃないですか、普通から言えば。同一
部局のですね、部下が行動するのに上司の許可がいるなんて、どこにあるん
で、名古屋市中、そんな条文が。僕は現に10人に、全員じゃないけど、当該
中学校に聞いていますけど、先ほど言いましたけど、まず学内で処理すると。
それで、言い方ちょっと違いましたけど、手に負えんようになった場合ですね、
どうにもならんようになった場合には、指導室と相談するんだと、はっきり言
ったりしましたから、指導室と相談すると。で、指導室が、許可という言葉じゃ
なかったですけど、じゃあ、ということになってきたら、教頭か校長を通じて
そこへかかって来るといふふうで運用していましたと。そんなこと、私そう
ならんようにですね、何遍も頼んできたはずですよ。せつかく専門職の人が来る
んだから、ちょこっとでもね、まあ学内で相談してもらうのもいいですよ、
色々。病気なら病気で体質改善とか色んなことあるからね、そりゃいいだけ
ど、救急車みたいな対応がいる場合もあるわけですよ、子どもさんに。そう
いう時は一刻も早くね、専門職である応援委員会に相談するいうのをね、お願い
しとったじゃないかというようなこと言いましたら、いやそういうふうには理
解していなかったと謝ったんです。いや謝らなくてもいいんだと。それから調
査したらなんとこの許可がという話でですね、大変心外ですので。この規定が
今どうなったか知りませんが、直すいう話でしたけど。

〈教育委員会事務局水野子ども応援委員会制度担当部長〉

直しました。

〈河村市長〉

直した。まあ直したならええけど。あとどうなったかちょっと分かりませんが、そうならんようにね。ほんで、わし信頼できん言っとるんですよ。こんだけ言っといても。そりゃもう、私は決裁してませんからね、これ当然。決裁の書類も見せていただいたら教育長以下の判が押してあるだけじゃないですか。だから、これだけを理由とは申しませんが、そういうことやっとなる間に不幸が起きちゃったという可能性もあるわけですよ。そこんともっと柔軟に、多くの人に使ってもらえるようにね、応援委員会がもう忙しくてどうしようもならんです、増やしてくれと、言ってくるくらいまでしないかんですよ。朝から晩まで残業でえらいことだと。そういうふうにはせないかんですよ。それに合うように100人体制を作っていくということでございます。

ちょっと議会でもありまして、答弁しましたけど、その他新聞にも書いてありましたけど、今申し上げるように、教育委員会でやっていただくのはいいですよ、だからこれやってるんですよ。だけど、市長は市長で、独自の予算編成義務もありますし、これは。具体的に言えば、子ども応援委員会どういうふうに機能しとるか、僕は調査する義務があるんですよ、これは。そうでしょう、これ。無理に変なことは言ってませんよ。それに対してね、越権であるような報道があったりですね、これはとんでもない間違いで、やっぱり子どもをみんなまで応援していく言うことは、教育については、確かにまず教育委員会です、独立行政委員会になっていますからね。それは一つ意味があることですけど。やっぱり市で、昨日の給料の問題もそうですけど、みんなが公務員になった以上は、公務員じゃない人もそうなんだけど、やっぱり考えていくテーマを、最

大のテーマではないかなあと僕は思っておりますので、そこは、委員長にも言いましたけど、これでヒアリングしますからって言いましたけど。その辺のところはきちっと理解してってもらわないと。あのことを言われた名古屋大学の先生には直接言いました、文書出して。おかしいよ、あなたって言って。僕はあれで言ったことに、実は今の運営されとった体制ですね、まあ他にもありますけど、応援委員会が要するになんかあった時に、内部だけで処理しとったと、ということ初めて分かりましたから、これで。非常に貴重な体験だったですよ、これは。僕にとってじゃなく、子どもさんにとって非常にあれは分かってよかったと思いますよ。子どもさん、名古屋の、名古屋だけじゃないんですけど。そういうことをございますんで。そののこのら辺を誤解無いようにしてもらわんといかんということですわ。それは、確認しといてほしいんだ、みなさんの中で、ということです。まあ、できたらマスコミに抗議していただいてもいいんですけど。怒ってますよ、私、本当にこれは。市長の責任って、やっぱりこれは重いですから、予算編成やったり。それはどういうふうにワークしているかということは、それは第三者委員会がやるのもそうでしょう。今お願いしていると思いますけど。みなさんがやるのもそうでしょう。で、市長がやる部分もあるんですよ、やっぱり。そんだけの責任を負ってやっておるんですから。

〈下田教育長〉

そういう答弁をしています。

〈河村市長〉

それから、今のをちょっと外れますけど、文化部門なんかも、教育委員会やってますけど、この辺も一遍、今度観光局ができますので、そちらに移管してもらうことを考えてほしいんです。独自の文化庁とつながる指定文化財をどうのこうのという問題は残すとしまして、しかし、文化財を中心とする、僕は観

光という言い方は好きじゃないんだけど、昔から。なんか他所事みたいで、見世物みたいで。名古屋人の誇り、でいいと思いますよ、郷土に対する。先人に対する尊敬です、要するに文化というのは。そういうものはもっとまちづくり全般と関わっとるんで、これぜひこんな観光局という名前で、観光・文化と出ていますから、観光言うとな、人のためだけでなく金もうけだからということになりますけどそうじゃなく。そういうところでちょっと今言った。プロパーの文化施策、重要文化財の指定、そのあとの運用とかね、ああいうのは残していただいてもええけど、ぜひ一遍お考えをいただきたいということを思っております。ま、名古屋城とか熱田神宮とか色々あるんですけど、なかなか僕も名古屋のネイティブですけど、非常に残念ながら、熱田神宮なんてのは、どんだけ伊勢神宮が言われてるか、サミットで、なんで名古屋が出てこんのかしらんと思って。それから名古屋城の天守閣の本物の復元がなぜ全国ニュースに出ないのか。これは関西の某大市長が言ってました、なんで全国ニュースにならないんでしょうねって言って、すごいですよそれはって言って、という話を感じております。一つ文化財に対する取組みを教育委員会だけじゃなくて、まちづくりと一緒にした感じをお願いする体制にできんかと。

まあ、それと非常に残念なことですけど、加藤唐九郎さんという非常に、私は実は陶芸をある時期研究しとったことあるんですけど、日本のスーパースターで、彼が、守山に翠松園〈すいしょうえん〉がありまして、加藤唐九郎記念館があるんですけど、あそこを全部名古屋市に売却の形で、ただでお渡してもいい、作品も全部お渡ししてもいいというお話があった。ところが私の知らんところで教育委員会の現場が勝手に断る手紙を出して、お孫さんをどえりゃあ怒らせてしまった。そんなかに市長にはどうやって言ったんだって、ごちゃごちゃ書いてありましたけど、ああいうことやめてもらいたい。ちゃんと僕がこれは頼んだ時は、自分らで結論出してもらって、市長にどうやってとりなすんだとやるというのは、とんでもない話ですよ。名古屋は巨大な財産を失ったと思

ますよ、唐九郎さんの記念館という。大変全国で有名な方ですから。名古屋の生んだ巨人をですね、こんなことせんでほしいということですね。私も何遍も頼んだんだけど、その手紙が先にお孫さんとこに行っちゃったもんだから。永仁の壺〈えいにんのつぼ〉の事件があつてね、どうにもならんのだとか、何を言っとるんだっていう話ですね、僕らからすれば。人間ちょっとした過ちがあることあるけど、それでね名古屋の財産を失うのかということ、何遍も頼んだんだけど、どうしてもお怒りがお鎮まりにならずね、まあ今のままだったら名古屋近郊の某市に移ることになると思います。こういう他の部局でもそうだけど、私が言うことも間違ふこともありますんで、議論していただくのはええけどね、なんか課長かなんかのところで勝手に決めてですね、許可もそうですが、あとは市長をないがしろにしておいてですね、みなさん3年たったら転勤していくような、そういう無責任がね、行政体質は変えてほしいよ、本当に。ものすごい怒ってますよ、これ、私。大変な財産を失ってしまった、唐九郎さんのね、という話です。

あと、スポーツの部門を今教育にお願いしとりますけど、これは全国的にも教育員会から離れたと。これは教育長も了解しておりますので、一遍ですね、例えばバスケットだと豊田通商とか三菱電機のような大きい会社ですけど、みんなやっぱりプロスポーツばかりじゃないけど、みんなで楽しむようなものにしていきたいという話がありまして、ぜひこれもまちづくりと一緒にありますので。離すというのかですね、教育のスポーツというとなんか学校の軍事教練みたいなもんじゃないですか、何となく、イメージは。ですから観光局のほうへぜひ移管をいただいて、みんなで楽しめる、名古屋市民が。例えばどこかの、場所いうとあんまりあれですけど、若干伏見へとかあります。そういうところで一杯飲み屋もようけあつて、半日くらいやってハーフタイムショーのほうも見てですね、みんなで。名古屋でそういうスポーツチームの色々な活動を楽しむというような、子どもさんも来てもらえるしね、音楽もできるというような。

そんな体制でやるためには、ぜひまちづくりと一緒にやっていかないとですね。その辺の体制もぜひみなさんに議論していただいて、僕とすると、今度観光局に移管をしていただきたいと。これはスポンサー企業の意向、意向というのは移管してくれという意向じゃないですけど、ぜひ、大企業ですけど、ぜひ盛り上がるように、プロスポーツが。これバスケットですけど、言っつたのは。その方だけじゃないですよ、ハンドボールもあります。そういう体制ができれば大変うれしい。そういうやるときは、民営化してやってちょうよと。納税者になってちょうよと。まあアメリカだとスポーツコミッションとか色々ありますが、あれはNPOが多いですが、まあ頭だけNPOにしておいて、実際に運営される場所はぜひ税金漬けじゃなくて、納税者として活躍いただきたいなど。そのほうが役人のみなさんも楽になるし、そういったとこと関係ができてきますし、そのほうがええぞってわしは言ってるんです。

と、というようなことをごさいますて、若干、せつかくの会でごさいますのでメモしてまいりまして、しゃべり続けまして、申し訳ございませぬ。

〈梶田委員長〉

はい。それでは、市長からは、本当にたくさんの、減税を寄付にシフトしてほしい、とか、事務局部門の話、スポーツ部門の話、含めてたくさんご意見をいただきましたが、私からは、今回の協議題がいじめ自殺予防対策について、ということに当初なっておりましたので、そのことについて、教育委員会の考えるいじめ自殺予防対策について、ご説明いたしたいと思います。資料をご用意いたしましたので、ご覧いただきたいと存じます。

まず、なごや子ども応援委員会の充実について、お話しをさせていただきます。子ども応援委員会では、今年度の相談対応件数が10月末時点で3,175件であり、26年度の相談対応件数である2,695件を上回っています。活動した学校数も昨年の100校から178校に増えています。学校でも子ど

も応援委員会が浸透している結果であると言えます。

しかしながら、応援委員会が日常的に子どもたちを見守り、子どもの悲鳴を絶対に見落とさない活動をしていくためには、常勤の子ども応援委員会職員を配置する学校をさらに増やしていくことが必要です。教育委員会も希望としては、全中学校に1人ずつのスクールカウンセラーを配置したいと考えております。子ども応援委員会のスタッフの専門性の確保も必要です。人材確保に大きな課題があります。スピードと質の確保の両方を目指し、31年度までに全校配置してまいりたいと考えております。

また、子ども応援委員会がもっと学校の実態に即して活用されるためには、学校にもコーディネーターとなる役割の教職員を置き、子ども応援委員会との調整役を担うことが有効です。それにより子どもたちや学校のニーズに応じた子ども応援委員会の活用がより進められると考えております。

その他、広く子ども応援委員会を知ってもらうためのPR等、各種事業による質的な充実を図るとともに、設置校以外からの相談に迅速に対応できるよう努力をしてまいります。

先ほど市長からご指摘がありました、他の学校からの連絡方法について、当初より指導室の許可を必要とするものではありませんでしたが、学校から直接子ども応援委員会に連絡がとれる体制を改めて周知いたしました。誤解されやすい表現であった要綱も改正を行いました。

夢と絆〈きずな〉を育む取組みの充実について、です。

いじめのない学校、子どもたちが自ら死を選ぶことのない学校にするためには、3つのことを大切にしたいと考えています。

①将来に向かって夢をもつこと、②仲間とのきずなづくり、そして、③かけがえのない命の大切さに気づくことです。

①の将来に向かって夢や希望をもつためには、子どもたちがさまざまな職業のプロフェッショナルから夢を実現したお話を聞いたり、交流したりする機会

を作ってあげたいと思います。

②仲間とのきずなづくりでは、子どもたちが主体的に参画する活動をサポートすることで、仲間づくりを通した子どもたちの自己有用感を育んでいきたいと思っています。

③かけがえのない命の大切さに気づく取組みとしては、動物とふれあったり、震災などを体験した方からお話を聞いたりすることを通し、命の大切さや生きることの尊さを学んでほしいと思います。

また、こうした取組みと合わせ、「強い心を育むための取組み」として各学校において自殺予防の観点から、一人ひとりの子どもが、困難に直面した時の対処方法を身につけたり、人生に立ちほだかる壁を乗り越えていける「ストレスマネジメント」を学んだりするための授業を全校で実施していきたいと思っています。

次に、部活動における指導体制の充実です。部活動に関しては、校内の事情等により、教員顧問の目が行き届かない側面があります。そこで、常に子どもを見守り、いじめ等を未然に防止するという観点から、外部の人間である外部顧問や外部指導者による指導を拡充することが重要と考えているところです。

次に、相談体制の充実です。いじめや自殺予防対策には、一人一人の子どもの状態を把握し、適切にケアすることも、重要です。このためには、学校生活アンケート「ハイパーQ U」は欠かせないものであると考えます。また、いじめなどの問題発生後、子どもたちに個別相談による心のケアを行う非常勤のスクールカウンセラーの配置も拡充する必要があると考えます。

次に、学習に困難を抱えている子どもへの対応です。子どもたちが楽しく学校に通えるようにするには、学力を伸ばす機会を保障することが何より重要です。十分な学習の機会に恵まれない子どもや、日本語が十分に身につけられていない子どものためのサポート体制を充実させたいと考えます。

次に、特別支援教育の充実です。発達障害などのために、周りから理解され

にくかったり、行動面でのサポートが必要であったりする子どもたちもいます。なごや子ども応援委員会もそうですが、教員だけでなく、さまざまな役割のスタッフの力を合わせて学校運営に参画することが重要です。発達障害のための支援スタッフである発達障害対応支援員の充実にも力を入れたいと考えています。

以上により、子ども応援委員会自体の拡充に加えて、子ども応援委員会の機能を強化するために必要な取組みを進めることにより、日本で1番子どもを応援するマチ、ナゴヤを目指してまいりたいと考えております。

最後に、市長がシドニーに出張された際、市長が生徒から聞かれた生徒同士のいじめ防止の取組みについて詳細を調べるよう教育委員会に指示があったと聞いております。参考資料としてあわせてお配りしましたので、ご覧ください。この資料については、子ども応援室の高原首席指導主事よりご説明させていただきます。

〈高原首席指導主事〉

座って失礼します。

市長のほうから、シドニーの高校生が自分たちでいじめを止めるというのを聞いたと、これはどういう教育でこういうふうになるのかということを知りましたので、いろいろ調べたというか、私が知っているところも含めてですが、欧米ではこのオルヴェウス、英語読みだとオルウェウスと言ったりするんですが、ノルウェーの大学の先生でオルヴェウス博士というのが正しい、近いみたいです。英語で私がアメリカで習ったときはオルウェウスと。色々読み方はありますが、このプログラムをベースにしたもの、もとの形は1980年代の中頃にできていますが、かなり大規模調査、ノルウェーの全土の小中学生、それから隣のデンマークの一部の小中学生にも調査を、国家プロジェクトとして調査をして、この大学の先生が中心になって作ったプログラムをオルヴェウス

プログラムと呼びます。これが、かなり効果があったものですから、その当時の北欧のほうの政治的な情勢もあまり良くなくて、学校のほうもかなり不安定であったという要因もありまして、かなりいじめによる自殺が続いていたという背景があります。そこで、これを全国でやってみたところ、かなりうまくいき相当数のいじめが減ったと。学校によっては、50パーセント減ったという報告もありましたので、これがかなり欧米では用いられるプログラムになってきたということで、シドニーのほうでもスクールカウンセラーの人に聞いてみたところ、みんなこれを知っていて、これを踏まえてカウンセラーのほうも教育している、子どもに教えているということでした。

それから、この前ロサンゼルスからお客さんが秋に、10月に来ましたが、あそこの講演の内容でかなりこのプログラムにそっくりだったので、私がオルウェウスじゃないんですかと聞いたみたら、やはりそうでしたので。ですから欧米ではこれが行き渡って行われているプログラムだということです。参考資料をお配りしましたが、今の経緯は1番のところに書いてあります。アメリカの学校にはスクールカウンセラーが常勤でいますので、その人も手伝いながら、ただ主体は学校全体がやるものです。英語ではスクールワイドプログラムと言います。学校全体で取り組んでいくプログラムなので、カウンセラーだけがカウンセリングをやってどうにかなるような問題ではない、いじめは社会的な問題なので、心理的な問題というよりは社会的な問題としてとらえて、学校全体で取り組む、しかも地域や保護者にも協力をしてもらって取り組む、かなり大がかりな取組みになります。簡単にできるものではない、これ浸透するまでにやはり10年以上は北欧でもアメリカでもかかっています。そのくらい時間をかけないといけないし、労力も必要だということです。どうするかというのは、読んでしまうと非常に単純です。基本的には行動心理学に基づいたエビデンスに基づいて、間違ったことはしないという方針に基づいていますが、この4つのルールを抽出してあります。私たちは他の人をいじめません、いじめられて

いる人を助けます、自分がいじめられたら自分を自分で助けるということも2番に入っています。一人ぼっちの人を仲間に入れます、必ず友達を孤立させない、これはとても大事なことです。それから4番目、すぐにいじめがあったら躊躇〈ちゅうちょ〉せずに考えずに報告するような姿勢を、子どもに小さいころから植えつけてしまう。かなり大がかりな形でこの4つのルールを徹底して守らせるといじめが減っていったと検証結果で出てきています。欧米にはゼロトレランスという考えがありまして、日本のように情状酌量とか、「まあいいか」というのは認めない、欧米はもともと社会自体がルール重視の社会なので、色んな多様な価値観がありますので、ルールを守らせることを徹底して行うプログラムです。とても生徒指導的なプログラムになっています。具体的には、実施としては、全校学校が中心になって取り組むのはもちろんですが、先生だけじゃなくて色んな職員が学校にはいますので、全員がこれにかかわっていく、その人達のための研修も行います。アメリカで私が学んだ時には、私自身もスクールバスの運転手さんにも研修をしていましたので、そういうふうに全員が取り組むんですよ、ということはかなり強く植えつけていくということです。保護者会もアメリカではPTAがとても重要な役割を学校教育ではしていますので、そのPTAの人達にもかなり協力してもらおう。それからクラスと書いてありますが、アメリカには学級がないので、日本のようなホームルームというのは欧米にはありませんので、各先生が手分けして生徒を名簿順に分けてクラス編成をしたりして。それから何らかの授業の時間にでもいいんですが、そこで何らかの説明をしたりとか、ガイダンス的なことをやってもらったり授業的なことをやってもらおうということです。個人に向けてはカウンセリングを中心にして、欧米にはカウンセラーだけじゃなくてソーシャルワーカーとかリソースティーチャーとか色んな教科を教える先生以外の方が常勤でいますので、そういう人達も全部仲間に入れて一丸となってやってもらおう。それから地域に向けて、これ先ほど言いましたようにPTAを中心に地域でも理解をもらっ

て、場合によっては保護者の方にも研修を受けてもらって家ではどうしたらいいんですかというような取組みもしていくということ、それはこの前ロサンゼルス講演のときも盛んに説明していましたが、そういうことを行っていくプログラムです。

ちなみに市長のほうから、これ英語でなんというのと聞かれたのがありまして次のページに英語とそれから日本語にしたものがあります。日本語にうまく訳せないものがありますが・・・。

〈河村市長〉

英語で覚えてらいい。

〈高原首席指導主事〉

あまり訳がどうかという文もあるんですが、英語で覚えたほうが元の考え方には近いものになると思います。

〈河村市長〉

かっこええで。

〈高原首席指導主事〉

要するにかなり広範囲に、単に心理カウンセラーを一人雇えばいいというようなものではなく、学校全体、地域全体がみんなで取り組んでいって、しかも小さい時から子どもをこういうふうに取り入れていくプログラムであり、かなり大掛かりな準備期間も必要ですし、そうやって欧米ではやってきて、ようやく少しいじめが減っているという状況ですから、そんなようなプログラムが実際に存在しているということは、お耳に入れておきたいと思います。以上です。

〈河村市長〉

これ英語かっこいいで、英語で覚えるとええなあと、やっぱり英語はかっこええなと思って見てますけど。これも時間がかかるとは思いますけど、取組みははよやって頂いて、いじめもそうですけど、僕にあるのは、子ども時代から手を挙げてですね、今、大分手を挙げるようになってきたけど子どもは、例えば原発もそうだし名古屋城もそうだし、私、先生、こう思うでって言う、話するときに優等生ばかりだと典型的な話じゃなしにね、個性が十分あふれとって先生がそれを応援するんだと、上からえらそうに言うんじゃなしに。その代わり先生も勉強せないかんですよ。そりゃ。そうなってくると。そういう子どもがでんかということが願いなんですわ。

で、ございますので、ぜひこれ、4か条のご誓文じゃないけども、英語で暗唱できるくらいにならないかんわな、まあ雰囲気を出すには。ということで。ぜひ早急の取組みをお願いいたします。

さきほどあった、スクールカウンセラー31年度までにと言われたけど、スクールカウンセラーだとするとどうかわからんけど、まあなかなかね、一つのタイミングというのがありまして、今回の予算編成なんかは社会的にみると、一気に充実させるのに。ただそれだけの供給側の問題もありますので、国も全力で応援すると言ってますから、少なくとも僕に明言してますので、これ。やりましょうとって、名古屋はフロントランナーだと明言してますから、国は。ですから、31年度、まあスクールカウンセラーだとそうかもわからんけど、来年度からもう100人を目指してやってもらいたい。

それについて、さきほど言いましたように、養護教諭さんやらありますけど、やっぱり今の発達障害のみなさんの支援員は特に入れていただいて充実させることは、大変重要だぐらいはよう分かっておりまして、けどちょっと外れまして申し訳なかったけども、そんな体制で1校1人は必ずやっぱり専門の教科以外をやる人がいると、それも専門家でいると。専門家がすぐでん場合は、

名市大の生徒を養成しますからといって、それこそ今、高原さんが言われたように全校をあげて教育関係者をあげて問題意識としてやっていくという体制でお願いしたいと思います。まあ国が言っとるチーム学校ってやつとね、あれとはよく似てますよ、非常に。だから国もいいんですよ、大変ありがたいことですよって言ってます、そのフロントランナーとして名古屋が取り組んでこられて、応援する言ってますので。まあただ僕は、先生がですね昔、中学校時代、柿泥棒ばかりやってけんかしたりしましたんで、憎いわけじゃないんだけど、先生だけのフィールドで、教師だけのフィールドでやらないようにぜひお願いしたいですわ。そりゃやっぱり先生も忙しいだろうし、自分らの体系が及ばんところもあるし僕でもそうですが。国もチーム学校といういいスローガンが出てきましたので、やっぱり問題意識もほとんど同じだと思いますけどね。そこで先生の中でのチーム学校にならないようにしたいと僕は思いますけどね。校長さんの、わしもよう覚えてますけども、担任の先生がどうであったかという、子どものころの人間形成は決定的にでかいですからね、実は。ものすごいええ仕事ですわ、聖職論をここでぶつつもりはありませんけど、こんなええ仕事やらせてもらってありがたいと思ってもらわないかんわ、わしは。そういう取組みをぜひ。私も全力で応援しますのでよろしくお願いいたします。

何かせっかくなのでございますか。いいですか。

では今日は貴重な時間をありがとうございました。あんまり頻繁にやっても困るかわからんけど、せっかく国が作った制度ですので、これはですね。こうやってやりながらええものにしていきましょう、子どもさんのためになるように。今日はどうもありがとうございました。

(終了)